

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2296900166		
法人名	株式会社 エイルプラス		
事業所名	グループホーム今日香		
所在地	静岡県磐田市上野部1519-5		
自己評価作成日	令和5年4月17日	評価結果市町村受理日	令和5年7月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2296900166-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5年5月30 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の体調管理に力を入れている。協力医療機関の協力で24時間の医療体制を整えており、体調の変化によって速やかに検査を受けられるようにしている。
 また、あらたに病気が発見された場合にも、全職員に病気の状態や日々の生活の中で気を付けることについてグループLINEを使用して全職員が把握できるよう対応している。そうすることにより、日々同じケアを実施できるよう心掛けており、入居者様やご家族に安心して過ごして頂ける環境を整えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は幹線道路から少し入った広々とした畑が広がる場所にあり、広い敷地には平屋の建物と芝生を敷きつめた庭があり、プランターには季節の花が植えられている。毎月のお便りは個人の写真をたくさん載せ、日頃の様子がわかりやすいと家族の評判が良い。また、家族様アンケートからは医療面での信頼や安心感が得られるとのコメントがある。事業所は地域に理解され、口コミでの入居者が多く、常に待機者がいる。職員からは「働きやすく、コミュニケーションが取れていて、情報共有もできている。」とヒヤリングで確認できた。管理者は利用者や職員のことを思い、要望に答えてよい施設になるようにと日々努力している。職員会議と研修はコロナ禍でも毎月各1回ほぼ全職員が参加して行われ、職員は8委員会と7係に所属し、自分の役割を理解しサービスの向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関だけでなく、事務所、フロアの冷蔵庫、職員用トイレ、個々の携帯などに理念を貼っており、常に意識して過ごせるよう気を付けている。また、出勤時に事務所で理念を読んだから業務を開始するようにしている。	理念は事務所やトイレ等職員の目につく所に掲示し、仕事に入る前に理念と行動指針を読み意識付けるように促している。理念に基づいた年間目標を社長を交えて職員で決め、個人目標も設定し、半年に1度、評価している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、地域の中で行われる行事には出来るだけ参加するように努めている。	自治会に加入し、回覧板で情報を得ている。自治会の行事の草刈りや掃除、防災訓練はコロナ禍にあっても職員が参加している。昨年再開した秋のお祭りでは利用者も事業所で屋台を見学して楽しむ事ができた。コロナ以前に受け入れていた中学生の職場体験を今後も協力する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や、入居希望で相談に来られたご家族に対し、ご自宅でのケアの工夫や対応方法などを、お伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、書面開催となっており、話し合いは出来ていないが、議事録を作成し、皆様へ配布し確認してもらっている。	昨年度の初回は対面開催、それ以降は書面開催ではあるが、計6回行われている。近況報告や活動内容、研修の内容等わかりやすく詳細に記録され、関係各所と全家族に配布している。対面開催の時には意見交換が活発になされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍のため、直接会って話し合うことは出来ていないが、必要なことはメールや電話で確認している。	市のグループホーム連絡協議会に加盟しているがコロナ禍で開催はなかった。行政とは介護保険法の変更点や加算等不明なことはメールや電話で相談している。地域包括支援センターとも良好な関係を築き、認知症カフェが再開されたら参加予定でいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回勉強会を開催し、必要な内容を伝え、全職員が把握できるよう工夫している。また、入社時にも説明を行っている。	指針、マニュアルは整備され、職員は内容を把握している。委員会は施設長、各リーダー、職員2名で構成され、毎月委員会を開催し、職員会議と運営推進会議で報告している。研修は1回はマニュアルの内容から資料を作成し基本的なことを行い、もう1回は事例やそれに基づいてシミュレーションを行っている。	

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回身体拘束の勉強会と合わせて実施している。また、入社時にも説明を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回勉強会を行い、どのような状態の時にどの制度を利用するのかなどを分かりやすく説明する用にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	質問に関しては、出来るだけ分かりやすく説明できるよう工夫している。改定時の説明は、より分かりやすく文章でお知らせするだけでなく、面会時にも口頭で説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様から直接何か訴えなどがあった場合には、出来るだけご要望に添えるよう心掛けています。ご家族様との意見交換なども定期的に行えるよう配慮している。	以前は日曜日に敬老会で家族会を行っていたが、県外在住の家族や仕事の都合で参加できない家族も増えた。利用者個々の写真と近況を載せたお便りを郵送し家族には好評である。コロナの状況によって面会方法を工夫して継続して行い、家族アンケートも内容を検討して行った。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	係や委員会で話し合った内容を、担当者から直接会議の場で報告してもらうようにしている。	全職員が8委員会、7係に所属し、メンバーが集まると随時会合を行っている。全体会議と研修を毎月それぞれ1回行い、ほぼ全職員が参加している。年2回個人面談が行われ、毎月希望休以外でも職員の都合に柔軟で、職員ヒヤリングでも職員間はコミュニケーションが取れ情報共有もできているとのことであった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力や性格を考え、一番自分らしく行える係や委員会を担当してもらうよう心掛けている。勤務形態は、時短、パート、週休3日勤務など個々に選ぶことができるようにし、無理なく働けるよう工夫している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の勉強会については毎月実施している。外部研修に関しては、必要に応じて少しずつ参加できるようになってきた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍であり、施設外の勉強会はあまり行っていないが、今いる入居者様の状態に合わせて多職種間での交流を増やしたり、意見交換を行えるよう環境を整えている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	全員認知症なので、ご本人からご意見を伺う事は難しいが、ご家族からお伺いしたことを施設へ持ち帰り、全職員に把握してもらい、対応を徹底するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お伺いした内容については、ご本人が施設に入居した後のイメージがしやすいように、実際施設で対応している例を上げながら具体的に説明するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用が困難となり入居される方ばかりなので、他のサービス利用を検討されているご家族はほとんどいないが、ご家族から要望があれば、柔軟に対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々に出来ることを見極め、楽しく過ごせるよう工夫している。また、1で行うのではなく、他者も交えて行う事で孤立を防ぎ関わりを増やしていく工夫をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2か月に1回の写真付きのお手紙と、文章のみのお手紙で日々の様子が分かるように工夫している。また、少しいつもと様子が違う場合にもご家族へ連絡し、情報共有を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため、面会制限があるため、あまり会えていない。また、外出も散歩やドライブには出かけるが、他者との交流は出来ない。しかし、電話は増えている。	利用者からの要望があると散歩やドライブで家の近くに行ったり、帰宅願望のある利用者には家まで散歩の支援を行い、近所の方とおしゃべりをして満足して帰ってくる。コロナ禍ではあるが、状況をみながら面会方法を工夫して面会を継続して行った。家族からの電話はコロナ前より増えたので取り次いで会話ができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべくフロアで過ごして頂けるような工夫をしている。近所で顔なじみの方の入居が増えてきたため、会話も以前より増えているように感じる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お看取りまでさせて頂くことがほとんどなので、ご本人に会う事は出来ないが、ご家族様と会う機会があれば、故人を偲んでお話させて頂くことはある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人からお伺いできる場合には直接伺って出来る限りお応えできるよう努めている。困難な場合でも、ご家族と相談しながらご本人の希望に添えるような工夫を行っている。	入居者の入れ替わりによって、自分の意思や思いを表現できる利用者が増え、利用者の要望にはできる限り答えるようにしている。会話の中からヒントを得て馴染みの物を家族に家から持って来てもらったりしている。職員は口頭やノートで情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族からお伺いしたことを、全職員に把握してもらえるよう工夫している。入居後に変更になったことについては、申し送り時に報告してもらい把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にADLのチェックと長谷川式を実施し、その都度ご本人の状態に合わせて対応を変更していくよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1か月評価を実施することで、少しずつ変化していく入居者様の様子に早く気付けるよう工夫している。ご本人の状態に変化があった場合には、ご家族や協力医療機関と相談しながら対応を考えている。	独自の「1か月評価」に短期、長期目標を加え担当の職員が記入している。担当職員は固定せず全職員が全利用者について理解するように工夫している。ケアマネジャーは評価を参考にして関係者の意見を反映させて介護計画を作成している。今後はタブレット入力も検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録とフロアノートで全職員が常に同じ情報を共有できるよう努めている。また、介護計画の見直しが必要な場合には、メモを入れるようにしている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の病状に合わせて、協力医療機関だけでなく、個人で訪問看護を利用できるよう準備している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため現在は実施できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科に関しては協力医療機関に対応してもらっており、連携もとれている。他の病院へはご家族様に協力して頂き入居前と同様に通院できるよう配慮している。	協力医療機関から月に2回往診があり、看護師が1日1～2回訪問してくれる。他科受診は家族に依頼しているが、緊急や都合がつかない場合は職員が対応している。家族からは医療に関して安心だという意見が多く、信頼されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の様子が少しでも違う場合には、その都度往診の看護師へ連絡し、対応してもらえる環境が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は協力医療機関から直接入院先の病院へ連絡を取ってくれており、スムーズに行えている。退院時には、病院の相談員や看護師から連絡をもらったあとにFAXを頂き、その情報を確認した上で退院日を決定することが出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明し、同意もして頂いているが、実際に終末期を見返られた時にも説明させて頂いている。施設からだけでなく、必要に応じて看護師や医師からも説明させて頂いている。	入居時に事業所の対応を説明し、同意を得ている。重度化した際に医師から説明をしてもらい、再度事業所からの説明をし、今後の対応を協議し同意を得ている。職員は年に1回研修を行い、実践力を身に付け、終末期の利用者が出る度に情報共有し、対応を学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年施設内で勉強会を行っており、全職員が把握できるよう努めている。また、入社時にも説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年施設内で勉強会を行っており、全職員が把握できるよう努めている。また、年に数回の訓練も実施しており、誰が出勤時でも対応出来るよう心掛けている。	災害対策委員会が中心になって防災訓練は火災・地震と水害で年に2回行われている。新しい入居者の対応をその都度確認している。備蓄は1週間分あり、定期的に点検し補充している。地域連携は運営推進会議や民生委員にこまめに声かけを行っている。	昨年に事業所周りが冠水する被害があった。夜間の災害で朝には水が引いたが、周辺道路が冠水し職員が出勤出来ない状態で、地域の避難所も冠水した。早急に行政と連携して今後の対策を検討し水害に備えられるよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のバックグラウンドを把握し、コミュニケーションを取っていく中で、少しずつその方に合った声かけの仕方を工夫している。	身体拘束委員会が中心になり、定期的に職員研修を行っている。職員の対応や接遇で気になることは職員同士でも指摘しあい、ノートや会議で情報共有をしている。課題のある職員については、管理者やリーダーが直接注意する場合もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく多くコミュニケーションをとることで、話しやすい雰囲気づくりを心掛けている。質問の仕方を工夫し、個々の思いを伝えやすくなるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課は決めず、その日の入居者様との会話をヒントに個々の希望に沿った対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人との会話の中で希望があれば、それをご家族様へ報告し、持って来て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ごはんとお味噌汁以外は届けて頂いているため、入居者様の好みに合わせてその都度調整してもらっている。	食事は栄養が考慮された主菜が法人の給食センターから届けられ、ご飯と汁物は作っている。職員は利用者と同じ物を食しているため、味や形態や好みが変わり意見はセンターに伝えている。月に2回お楽しみがあり、誕生会には職員の手作りケーキでお祝いをしている。テーブル、食器ふきは利用者が手伝ってくれる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表に記入してもらう事で、一目で確認が取れるようにしている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食歯磨きをしてもらっている。 また、月2回訪問歯科が来てくれており、気になる事があれば教えてもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用することで、個々のタイミングを把握することが出来ている。	排泄チェック表に基づき、個々のタイミングに合わせ、また、しぐさ等を観察して日中はできるだけトイレでの排泄を促している。自立の利用者は見守りや誘導をしている。現在はポータブルトイレ利用者はいないが、夜間は安全に配慮しておむつにするケースもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分はしっかり摂ってもらうよう工夫している。歩ける方に関しては散歩に出かけて身体を動かしてもらっているが、歩行困難な方に関しては座ったままで着る運動などをクフしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2人介助の方に関しては、なるべく午前中に入浴して頂いているが、その他の方は午後に入浴して頂いている。	1日おきに入浴できるように支援し、好みに合わせ入浴剤も使用している。現在は2人介助や拒否が強い利用者があるので時間を決めず、タイミングを見て支援している。入浴中は出来るだけ利用者とは会話を楽しめるよう心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間や入床時間を決めず、ご本人の意思を尊重している。休憩時間については、個々の身体の状態に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師にも対応して頂きながら薬の管理を行っている。変更時は、申し送り時に口頭で伝え、フロアノートへ記入することで全職員が把握できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍のため外出は出来ていないが、散歩やドライブへは出かけており、少しでも気分転換になるよう努めている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、現在は対応出来ていない。	要望があると以前住んでいた家の周りに散歩やドライブに出かけたり、近所の顔なじみの人と話をしたり、敷地内のプランターの草取りや芝生でくつろいだりしている。外出時の写真を家族に送付し関係性が途切れないよう心掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いをお預かりしている方は数人いるが、施設で管理させて頂いている。コロナ禍のため、買い物も行っていないため、使用せず。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から希望がある時にはご家族へ連絡し、お話を頂くようにしている。また、お手紙が届いた場合には、かける方の場合はお返事を書いて出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	少しずつ施設内の照明を変更しているため、暗かったトイレも明るく快適に使用できるようになっている。季節感を感じられるものに関しては、フロアの壁飾りを入居者様と一緒に作ることで楽しみながら季節を感じられるよう工夫している。	リビングには季節感のある制作物が職員と利用者で共同制作され、展示されている。重度の利用者が和室で休みながら、皆さんの声を聞いたり感じる事ができるよう配慮され、明るい色のソファベッドを配置して様々な所で寛げるよう心掛けている。加湿器付空気清浄機が各ユニットと事務所に置かれ、換気や消毒に注意し快適な空間を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コロナ禍のため、フロア間の往来は出来るだけしないように気を付けている。居室へ行きたいと訴えがある場合には危険のないよう、見守りながら過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の説明時に、ご本人の馴染みの物となるべく多く持って来て頂くようお願いしている。不安になった時に馴染みの物があると安心して頂けるのではと考え、工夫している。	利用者の機能維持を心掛け可能な範囲で職員と共にモップ掛け等の清掃活動をしている。馴染みの物を持参してもらうよう家族に話し、お気に入りの縫いぐるみの猫を大事にしていたり、馴染みの雑誌をレイアウトしている。家族の写真を飾っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室などに行きたいと訴えがある場合、どなたにもその場所まで一緒に行って案内するのではなく、言葉で伝えて自分で確認しながらたどり着ける方の場合には、少し離れたところから危険のないよう見守るようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2296900166		
法人名	株式会社 エイルプラス		
事業所名	グループホーム今日香		
所在地	静岡県磐田市上野部1519-5		
自己評価作成日	令和5年4月17日	評価結果市町村受理日	令和5年7月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2296900166-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5年5月30 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の体調管理に力を入れている。協力医療機関の協力で24時間の医療体制を整えており、体調の変化によって速やかに検査を受けられるようにしている。
また、あらたに病気が発見された場合にも、全職員に病気の状態や日々の生活の中で気を付けることについてグループLINEを使用して全職員が把握できるよう対応している。そうすることにより、日々同じケアを実施できるよう心掛けており、入居者様やご家族に安心して過ごして頂ける環境を整えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関だけでなく、事務所、フロアの冷蔵庫、職員用トイレ、個々の携帯などに理念を貼っており、常に意識して過ごせるよう気を付けている。また、出勤時に事務所で理念を読んでから業務を開始するようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、地域の中で行われる行事には出来るだけ参加するように努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や、入居希望で相談に来られたご家族に対し、ご自宅でのケアの工夫や対応方法などを、お伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、書面開催となっており、話し合いは出来ていないが、議事録を作成し、皆様へ配布し確認してもらっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍のため、直接会って話し合うことは出来ていないが、必要なことはメールや電話で確認している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回勉強会を開催し、必要な内容を伝え、全職員が把握できるよう工夫している。また、入社時にも説明を行っている。		

静岡県(グループホーム今日香)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回身体拘束の勉強会と合わせて実施している。また、入社時にも説明を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回勉強会を行い、どのような状態の時にどの制度を利用するのかなどを分かりやすく説明する用にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	質問に関しては、出来るだけ分かりやすく説明できるよう工夫している。改定時の説明は、より分かりやすく文章でお知らせするだけでなく、面会時にも口頭で説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様から直接何か訴えなどがあった場合には、出来るだけご要望に添えるよう心掛けている。ご家族様との意見交換なども定期的に行えるよう配慮している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	係や委員会で話し合った内容を、担当者から直接会議の場で報告してもらうようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力や性格を考え、一番自分らしく行える係や委員会を担当してもらうよう心掛けている。勤務形態は、時短、パート、週休3日勤務など個々に選ぶことができるようにし、無理なく働けるよう工夫している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の勉強会については毎月実施している。外部研修に関しては、必要に応じて少しずつ参加できるようになってきた。		

静岡県(グループホーム今日香)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍であり、施設外の勉強会はあまり行っていないが、今いる入居者様の状態に合わせて多職種間での交流を増やしたり、意見交換を行えるよう環境を整えている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	全員認知症なので、ご本人からご意見を伺う事は難しいが、ご家族からお伺いしたことを施設へ持ち帰り、全職員に把握してもらい、対応を徹底するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お伺いした内容については、ご本人が施設に入居した後のイメージがしやすいように、実際施設で対応している例を上げながら具体的に説明するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用が困難となり入居される方ばかりなので、他のサービス利用を検討されているご家族はほとんどいないが、ご家族から要望があれば、柔軟に対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々に出来ることを見極め、楽しく過ごせるよう工夫している。また、1人で行うのではなく、他者も交えて行う事で孤立を防ぎ関わりを増やしていく工夫をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2か月に1回の写真付きのお手紙と、文章のみのお手紙で日々の様子が分かるように工夫している。また、少しいつも様子が違う場合にもご家族へ連絡し、情報共有を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため、面会制限があるため、あまり会っていない。また、外出も散歩やドライブには出かけるが、他者との交流は出来ていない。しかし、電話は増えている。		

静岡県(グループホーム今日香)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべくフロアで過ごして頂けるような工夫をしている。近所で顔なじみの方の入居が増えてきたため、会話も以前より増えているように感じる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お看取りまでさせて頂くことがほとんどなので、ご本人に会う事は出来ないが、ご家族様と会う機会があれば、故人を偲んでお話しさせて頂くことはある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人からお伺いできる場合には直接伺って出来る限りお応えできるよう努めている。困難な場合でも、ご家族と相談しながらご本人の希望に添えるような工夫を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族からお伺いしたことを、全職員に把握してもらえよう工夫している。入居後に変更になったことについては、申し送り時に報告してもらい把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にADLのチェックと長谷川式を実施し、その都度ご本人の状態に合わせて対応を変更していくよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1か月評価を実施することで、少しずつ変化していく入居者様の様子に早く気付けるよう工夫している。ご本人の状態に変化があった場合には、ご家族や協力医療機関と相談しながら対応を考えている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録とフロアノートで全職員が常に同じ情報を共有できるよう努めている。また、介護計画の見直しが必要な場合には、メモを入れるようにしている。		

静岡県(グループホーム今日香)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の病状に合わせて、協力医療機関だけでなく、個人で訪問看護を利用できるよう準備している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため現在は実施できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科に関しては協力医療機関に対応してもらっており、連携もとれている。他の病院へはご家族様に協力して頂き入居前と同様に通院できるよう配慮している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の様子が少しでも違う場合には、その都度往診の看護師へ連絡し、対応してもらえる環境が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は協力医療機関から直接入院先の病院へ連絡を取ってくれており、スムーズに行えている。退院時には、病院の相談員や看護師から連絡もらったあとにFAXを頂き、その情報を確認した上で退院日を決定することが出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明し、同意もして頂いているが、実際に終末期を見返られた時にも説明させて頂いている。施設からだけでなく、必要に応じて看護師や医師からも説明させて頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年施設内で勉強会を行っており、全職員が把握できるよう努めている。また、入社時にも説明している。		

静岡県(グループホーム今日香)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年施設内で勉強会を行っており、全職員が把握できるよう努めている。また、年に数回の訓練も実施しており、誰が出勤時でも対応出来るよう心掛けている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のバックグラウンドを把握し、コミュニケーションを取っていく中で、少しずつその方に合った声かけの仕方を工夫している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく多くコミュニケーションをとることによって、話しやすい雰囲気づくりを心掛けている。質問の仕方を工夫し、個々の思いを伝えやすくなるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課は決めず、その日の入居者様との会話をヒントに個々の希望に沿った対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人との会話の中で希望があれば、それをご家族様へ報告し、持って来て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ごはんとお味噌汁以外は届けて頂いているため、入居者様の好みに合わせてその都度調整してもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表に記入してもらおう事で、一目で確認が取れるようにしている。		

静岡県(グループホーム今日香)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食歯磨きをしてもらっている。 また、月2回訪問歯科が来てくれており、気になる事があれば教えてもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用することで、個々のタイミングを把握することが出来ている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分はしっかり摂ってもらうよう工夫している。歩ける方に関しては散歩に出かけて身体を動かしてもらっているが、歩行困難な方に関しては座ったままで着る運動などをクフしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2人介助の方に関しては、なるべく午前中に入浴して頂いているが、その他の方は午後に入浴して頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間や入床時間を決めず、ご本人の意思を尊重している。休憩時間については、個々の身体の状態に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師にも対応して頂きながら薬の管理を行っている。変更時は、申し送り時に口頭で伝え、フロアノートへ記入することで全職員が把握できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍のため外出は出来ていないが、散歩やドライブへは出かけており、少しでも気分転換になるよう努めている。		

静岡県(グループホーム今日香)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、現在は対応出来ていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いをお預かりしている方は数人いるが、施設で管理させて頂いている。コロナ禍のため、買い物も行けていないため、使用せず。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から希望がある時にはご家族へ連絡し、お話をさせて頂くようにしている。また、お手紙が届いた場合には、かける方の場合はお返事を書いて出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	少しずつ施設内の照明を変更しているため、暗かったトイレも明るく快適に使用できるようになっている。季節感を感じられるものに関しては、フロアの壁飾りを入居者様と一緒に作ることで楽しみながら季節を感じられるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コロナ禍のため、フロア間の往来は出来るだけしないように気を付けている。居室へ行きたいと訴えがある場合には危険のないよう、見守りながら過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の説明時に、ご本人の馴染みの物をなるべく多く持って来て頂くようお願いしている。不安になった時に馴染みの物があると安心して頂けるのではと考え、工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室などに行きたいと訴えがある場合、どなたにもその場所まで一緒に行って案内するのではなく、言葉で伝えて自分で確認しながらたどり着ける方の場合には、少し離れたところから危険のないよう見守るようにしている。		